

---

# 花屑プロローグ5 花屑の日常

霧香 陸徒

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

花屑プロローグ5 花屑の日常

### 【NZコード】

N3890D

### 【作者名】

霧香 陸徒

### 【あらすじ】

芽衣の所属する「花屑」には少し変な人達が居た。それでも、大切な仲間・・・。

【樟葉 菜乃】

名前：くずは なの

通称：魔王 スクラップドフラワー

ナノ隊長

性別：女

年齢19歳

性格：温厚（基本的に）

使用TAM：TAM-01

【久々知 智亜子】

名前：くくち ちあこ

通称：ちゃーこ 逆噴射式暴発娘

性別：女

年齢：16

性格：活発

使用TAM：TAM-02

【香良洲 魅夜】

名前：からす みよ

通称：みや 才能の悪用

性別：女

年齢：17

性格：樂觀主義

使用TAM：TAM-03

【醍蝉 千代】

名前：だいぜん ちよ

通称：せん 馬鹿せん（智亜子の弁）

性別：女

年齢：15

性格：能天氣

使用TAM：TAM-04

【天宮院 香具羅】

てんぐういん かぐら

通称？：かーたん 戰場の青薔薇（自称）

性別：女

年齢：19

性格：現実主義

使用TAM：TAM-05

基地内廊下

私は名前を覚えるのが苦手だったから、このメンバーリストを持つようにした。

これで少なくとも名前は思い出す事が出来る。

私は芽衣。16歳でTAM-07に乗る射撃手だ。

「西の国」の部隊「花屑」に所属し、「東の国」からの進行を最前線で食い止めるのが私達の任務だ。

小さな基地とたつた6体のTAMで守りきらなくてはならない。

・・・6体？

私は今まで気にならなかつたが、こうやつてリストを見て始めて気が付いたことがあつた。

それは

「やつほお！ 莺衣ちゃん なぐに辛氣臭い顔してるのでなあ～？」

そう言つて後ろから私の胸を鷲掴みにしながら元氣な女の子が現れた。

「ひひひ行為をちやーーはしない・・・。となると・・・。

「・・・・・みや。 何？」

「うつわ！？ この娘また大きくなっちゃつた！？ この前まで私と同じぐらいだったのにい！ 我がつるべた同盟に反する所存であるぞ！ ええい！ 握りつぶしてくれるう！」

「い・・・痛い・・・みや

「純朴そうな顔してそんなどから整備員のヤツラにオナペットこされるのだよ！ 嫌なら抵抗してみれろー ほれほれほれ」

「・・・だから痛いって・・・。やめて・・・」

イキナツこんな事をもし思はれたら訴えてやるのに、生憎相手は女だ。

香良洲 魅夜ひとみやだつた。セミロングの髪はこつも悪戯に跳ねてこる。

とゆーかオナペツトってなんだソリフ?

「貴女達! 何やつてゐのよー。エリザ公衆の面前よー?」

セリに顔を赤くして長いシインテールを振り乱して立つていた。

「んん~? ああかぐらたんじやないの。おはよー」

「セリおー! 「たん」とか付けるなあ! 私は戦場の青薔薇 天宮院 香具羅よー!」

「妬いてるのは分かつたから、後でベットで待つててね。気持ちよくしてあげるから」

「妬いてるのは分かつたから、後でベットで待つててね。気持ちよくしてあげるから」

「ば、馬鹿じゃないのー? それで良くな。3が務まるわね!?

「いやいやいや、ナンバーなんて適当に並べただけであつて、別に実力がビビりうつて番号じゃないのだよ香具羅君。まあ、その辺

「この事はピロトークを交えて詳しく教えてあげよつか?」

「だ・か・ら！ そういう破廉恥な事を言わないでって言つてるで  
しょつー？」

「つれないなあ～。分かつた。とりあえず芽衣で我慢する」

「…………我慢しなくていいのですのでやめてください」

少し泣きそうになりながらそう呟いたが、みやは全く聞いていない。  
こねこねと私の胸をもみ続ける。

「めええいひやあああああん」

「！ あわう」

そこにまた一人闖入者が現れた。 声とともに飛びついてきて、  
私とみやと一緒にもつれ合うように転んでしまつ。

「いたたた  
・・・。  
せん?  
」

「うん  
せんちゃん推参  
」

なにやらペースサインをしながら立ち上がるおやぢの女。名前はチヨのハズだが、何故か「せん」と呼ばれる。みや曰く、同盟名誉会員だそうだ。

騒ぎを聞きつけたのか、ナノ隊長の怒鳴り声が廊下の端から響いてきた。

「いやん！ 隊長来ちゃつた！」

「あ、『フフー』逃げるんじゃないわよ！？ 待ちなさいみや～」「あれえ？ 今度はかけっこするの？ 私も行く～」

「…………」

「大丈夫？ 芽衣

私に手を差し伸べてくれる隊長。その手を掴んで立ち上がる私。

「…………はい。隊長」

「やつ。 全く、問題児ばかりで困ったものなの」

「…………問題児…………ですか？」

「そつよ～？ みやはあんな性格だし、せんちゃんは何も考えてないよう振舞うし、かーたんは自分の気に入らない作戦はやらないし……。芽衣。代わりに隊長してくれない？」

「…………無理。 私にはその技量も人徳も無い」

「…………分かつてないな。 皆芽衣が好きなのに」

「…………。 私は隊長は隊長がいい」

「嬉しい事言つてくれるじゃないの。 でも、私に何かあつたら貴

女が隊長をやつてね。 これは命令なの 」

「…………隊長」

隊長が悲しい事を語つので少し泣きそうになつてしまつた。 それを見て隊長は慌てて両手を振つて訂正した。

「ああ泣かないで！？ 「冗談なの～。 可愛い芽衣を置いて逝くなんてあるわけないなの 」

もちろん本気としたわけじゃないし、魔王の最強ぶりを知つていいのでそんな事はあるわけないと思つてゐるが、悪いように考へてしまつと一気に妄想が膨れ上がつてしまつた。

「…………はい。 分かつてます隊長…………」

「うん。 よろしく。 でも、さつと語つた事は本当なの。 芽衣はとても出来た子なの」

「…………ありがとつぱりぞまく」

「きゅんきゅん～ 照れながら微笑む芽衣可愛い～～」

そう語つとナノ隊長は私を抱きしめてきた。 ・・・何かのスイツチが入つたのか。

「…………隊長…………ちよつと苦しいです」

そう抵抗するが、特段嫌では無いのでされるがままになつていた。

「お前等ツツコむ奴居ないんかい――――――!」

「アーティスト...」

一 はう

この娘、隊長だらうとなんだらうと物怖じしないで蹴り倒す猛者だ。

・・・その後どんな仕返しがあるか分かつてゐるにせつてしまふ猛者だ。

ああ・・・、今日も結局そうなるわけだ。うやーー！」

・ なんにせよ。

今日も「花屑」は平和だつた。

そんな事より、せつ ~~き~~ 気が付いた事・・・。 今度隊長に聞いてみよう。

何故TAMが・・・  
TAM-06が欠番しているのかを・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3890d/>

---

花屑プロローグ5 花屑の日常

2010年10月10日04時24分発行